

日蓮宗千葉県西部宗務所広報誌

佛の花ひらく 暮らしの中に合掌礼

# いのり

第5号



特集

## ・『立正安国論』

混迷の今こそ徹底解説！

日蓮宗千葉県西部宗務所

検索



# 立正安国論

とは？

『立正安国論』が

撰述された時代

『立正安国論』は日蓮聖人の代表する著述です。文應元年（一二六〇）、日蓮聖人が三十九歳の時、鎌倉幕府の実力者前執権北条時頼に提出した意見書なのです。正しい教えを立てて民を安んずる事を説示したもので、日蓮聖人が生涯を通じて唱えていくことになります。

では、その時代にはどのような背景があったのでしょうか。日蓮聖人ご自身が述べられている他、鎌倉幕府の正式な記録書『吾妻鏡』にも記されている様に天変地天（てんぺんちよう）<sup>1</sup>地震や異常気象、それに伴う飢饉、関連した争いごと、疫病等が多発していたのです。庶民にとって、飢饉は最も深刻で、それまで宗教的観点と、独自の文化から日本では殆ど食さなかった四ツ足、それもその屍肉を親が子供に食べさせる有様でした。また、当時は解明されていなかった日食月食などの天体現象も、不安に拍車をかけていたのです。

現在に置き換えてみますと、地球規模の気候変動や、パンデミックが人の心に大きな影響を及ぼしているのと、同じ事が言えるのかも知れません。人の心が動揺し、不安定になった時、必ず争いごとが起こります。戦争はその代表的な出来事と言えるのです。

日蓮聖人が示される正しい教えとは『法華経』であります。どの様な環境であろうとも、正しい教えに従って動じない心を養うことが『立正安国論』の撰述と提出だったのです。

## 「立正安国」とは

「正しい教えを立て、豊かな国を作る」という意味を持ちます。『立正安国論』は、ひとりひとりの信仰の大切さ、その影響力が説かれています。同書の根幹をなす一節には、

汝早く信仰の寸心を改めて速やかに  
実乗の一善に帰せよ。然れば則ち三  
界は皆仏国なり、仏国其れ衰へんや。  
十方は悉く宝土なり、宝土何ぞ壊（やぶ）れんや。

現代語訳

あなたは一刻も早く間違った信仰の小さな心を改めて、仏様の本心である『法華経』を信仰すべきである。そうなれば人間界も神様を含めた世界も全て安らかになり、この娑婆という世界は仏の国に成る。仏の国になれば衰える事などありえない。この国が仏の国に成れば、それが中心となり、広がって宇宙が全て仏の世界になる。そしてそれは、崩れる事もない。

とあります。『法華経』法師品第十には、『法華経』を受持し歓喜する者は誰でも菩薩であり、将来成仏するであろうと説かれています。『法華経』は信じる事で、生きとし生けるもの全てが成仏できる教えなのです。

## 信仰の寸心を改めるとはどういう意味か

当時、浄土宗の開祖法然上人の著作『選択本願念仏集』により、「死後の幸福にのみ期待して生きる」という教え（考へ）が流行します。実践するのが難しい教えは捨てて、誰でも実践しやすい阿弥陀仏にすがることだけによい。それ以外の教えは達成困難であるから、必要ではないと説いたのです。

この問題の出現は『法華経』勸持品第十三に説示されています。釈尊が涅槃に入り、教えが正しく伝えられない末法と言われる時代に、出家者でありながら自分の信じる教えだけが正義だと、正論のようにこじつける者がでて、『法華経』を弘める妨げをするだろうと予言されて

いるのです。日蓮聖人が生きた時代から現在に至るまでの時代は末法であり、日蓮聖人はここに注目し、我々が生きるこの世界こそ、永遠の仏が住む真の浄土であり、我々が生きる「今」を良くしなければならぬと強く唱えられたのです。その事に早く気が付くことの大切さを説いているのが、先の一節です。

国に衰微（すいび）無く土に破壊（はえ）無くんば身は是（これ）安全にして、心は是禪定ならん。此の詞（ことば）此の言（こと）信ぜべく崇（あが）むべし。

現代語訳

国が衰えず、土地も泰平ならば、人々も平和、常に心が静かで争いなど起こらない。これらの事は釈尊の教えである經典に書いてある事だから疑う必要などまるでないだろう。

日蓮聖人は『法華経』以外の經典を排除しているわけではありません。そのことは、全て釈尊の教えである經典より引用していることから明らかです。ただ末法という時代に注目し、時代に合った正しい道を示そうとしたのです。



# 立正安国論

## を読む

幕府・民衆を敵に回し、  
それでも伝えなければなら  
なかつた事とは…

『立正安国論』は、難しい論文の様な文章ではなく、世相を嘆いている客人と宿屋の主人との会話で進んで行く物語で、ある種のドラマ仕立てになっています。まずは現代語で内容を読み解いて行きましょう。

客 近頃は疫病や地震などの天災で、たくさんの人の命が失われている。この国に何が起きていると思いますか？

主人 私も同じことを考えていた。私がお経を紐解いて研究したところ、この災難の原因は世の中の人々が正しい教えを捨ててしまったから、この国を守る諸天善神が国を捨てて帰ってしまったのだ。

客 どのお経に書いてありますか？

主人 たくさんあるが、『金光明経』『大集経』『仁王経』『薬師経』にはっきり書いてある。こんなに明らかなのに、この国の人々は現実を見ようとしないから仏教はどんどん廃れてしまったのだ。我々は諸天善神に見捨てられたのだ。

客 仏教が衰退と言われましたが、中国から仏教が伝来して多くのお寺が建立され、お坊さんもそれを信仰する人もいます。そのどこが衰退というのですか？

主人 今の坊さんは権力に負けて、正しい教えを捻じ曲げて伝える悪僧になっている。この状況で仏教が栄えているとは言えるだろうか。

客 悪僧とは誰の事ですか？

主人 法然の『選択集』が全ての元凶なのだ。そこには仏の教えを捨てて阿弥陀様にすがれと書いてある。これは仏教に対する冒涇である。

客 法然はとても偉いお坊さんではないですか。その方を悪く言うとは、あなたが恐ろしくなりましたので私は帰ります。

主人 まあまあ落ち着いて。一つの考えに染まってしまったら、正しい指摘をされても悪口にしかな聞こえないものだ。念仏を弘めたことで

国に災難が起こった例は中国にも日本にもあるのだよ。

客 あなたの言いたいことは分かりました。しかし、あなたの様な者が国家権力に意見するのはどうかと思いますよ。

主人 確かに私には人に誇れる身分も知恵も無いが、仏弟子として仏教が廃れて行くのを見過ごすことはできないのだ。

客 どうすればこの災難を防げるのですか？

主人 私の意見ではなく、お経に書いてあることは教えられる。『涅槃経』には布施は素晴らしいと書いてある。しかし、正しい教えを悪く言う人に布施することは、どんな悪行よりも罪深いと書いてある。お釈迦様も正しい教えを非難した悪僧を殺した過去世があると書いておられるのだ。

客 それは悪僧の首を切れということですか？お坊さんの首を切るなんて罰が当たりますよ。

主人 そうではない。そんな悪僧に布施をするなと言っているのだよ。

客 『選択集』に仏さまやお経を捨てると書いてあるのは事実です。それが正しい教えを悪く言うことに当たるのですね。そういう人に布施をするのはやめます。

主人 しかし、人の心は移ろいやすいもので、今は私のことを信用してもいつか忘れてしまうだろう。それに、お経にはこのままだと「外国に侵略される」とも書いてある。他の災難は既に現れているから、一刻の猶予もないのだ。だから今すぐ正しい法華経を信仰しない。そうすれば、この国は仏の国となり、心穏やかに暮らすことができる。仏の国は誰にも壊すことはできないのだ。

客 あなたのお陰で正しい教えを悪く言う罪の重さが良く分かりました。正しい教えをよく聞いてこの世を平和にし、来世の成仏を祈りたいと思います。さらに、自分だけではなく他の人にも伝えたいと思います。

客 人が念仏信仰を捨てて、法華経信仰を誓うところで『立正安国論』は締めくくられています。このことで念仏宗の僧侶と信者を敵に回すことは容易に想像できます。実際、この後に日蓮聖人は念仏信者から迫害を受けることになりました。しかし、日蓮聖人はこの書を最期の門弟への講義にも取り上げ、生涯に渡って重んじたのです。

昨今、様々な情報が錯綜し、どれを信じれば良いのか混乱しています。それに一喜一憂して流されているのではなく、今こそ正しい教えに寄り添い、心の平和を目指す時なのす。



# 宗務所だより

## いのりの日

毎年四月二十九日（昭和の日）を主として、千葉県西部管内の僧侶と檀信徒が一体となつて行う団体参拝。例年は日帰りで県内の大本山清澄寺や大本山誕生寺への参拝を行っています。令和五年度は、日蓮聖人が身延山にお入りになられて七五〇年の節目を記念し、一六〇余名の僧侶と檀信徒が日蓮宗総本山身延山久遠寺へ参拝しました。



## 檀信徒協議会

千葉県西部管内各寺院の檀信徒総代・護持会役員が中心となり組織されている、寺院と共に御題目「南無妙法蓮華經」の教えを弘めることを主な目的とした会。毎年六月、茂原市の本山藻原寺を会場に総会が行われ、宗務所と連携を取り様々な活動を主動、協賛しています。

## 檀信徒青年会

檀信徒協議会と共に活動している、次代の寺院の中心を担う年代により組織されている会。現在、時代にあつた活動を宗務所と共に模索しています。



## 地区統一信行

千葉県西部管内は、茂原・長柄・長南地区、長生（白子、長生、一宮）地区、市原地区、木更津・富津・君津・袖ヶ浦地区と大きく四つに分かれており、年に一度それぞれの地区で統一信行会（団体参拝等）を行っています。



## 身近な仏教語

# 「利益」

利益とは、一般的には「りえき」と読み「自分にとつて得になったことや、事業などで得た儲けのこと」を言います。しかし、もともとは仏教語で、「りやく」と読むのです。語源はサンスクリット語で「ためになること」という意味を持ちます。現在でも「御利益（ごりやく）」と聞くと、仏様から授かる恩恵として有難いものとイメージしやすいと思います。

「利益（りえき）」となると、どうしてもお金を連想してしまいます。お金を得るためには働かなければなりません。給料を頂き、生活や趣味のためにお金を使うことで、誰しもが「もつと豊かになりたい」と願うことでしょう。

本来、お金は労働の結果として手に入るものです。しかし、お金だけを追い求めてしまうと良くない副作用が起こります。いつしか楽をして稼ぐことを考え始め、時には他人を騙してお金を盗もうとする邪な心が育てば、利益ではなく罰が当たります。つまり「利益≠お金」とする考えでは、仏様の御利益は得られないのです。「益」とは、「他人の役に立つ」という意味です。「利益を得る」とは、菩薩行の実践であり、自分が得ると同時に、他人をも利益することではなければならないのです。この精神こそが本当の利益なのです。

仏様は「誰かのためになること」、つまり徳を重ね続けている人にこそ、利益を与えてくださるのです。

# ちょっと寄り道

## 千葉県西部管内の飲食店

### ◆八幡屋（やわたや）

ブランド鰻を一年を通して熟練の職人が紀州備長炭で美味しく焼き上げます。



【住所】市原市潤井戸 1307-20 【電話】0436-74-0007  
京成電鉄ちはら台駅より 1.3km 【駐車場】有  
【営業時間】11:00～21:30（ラストオーダー 20:30）  
【定休日】不定休

### ◆蕎麦奉行（そばぶぎょう）

美味しさにこだわり、選び抜いたそば粉を自家製粉し、石臼で挽いた至極の一品！



【住所】茂原市下永吉 293-1 【電話】0475-24-3833  
【最寄り駅】JR 茂原駅より 1.5km 【駐車場】有  
【営業時間】11:00～21:00（ラストオーダー 20:30）  
【定休日】月曜日、第1・3火曜日



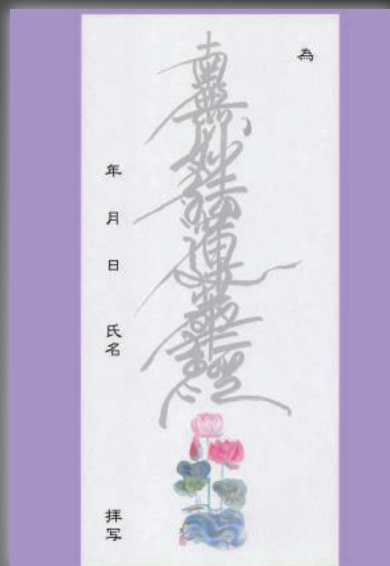


# 御題目写経

おだいもくしやきょう

日蓮宗千葉県西部宗務所謹製

※御題目写経は、千葉県西部管内寺院にお納めください。  
年2回の報恩法要にて加名盛（君津市）日蓮大聖人経石塚に納経いたします。



日蓮大聖人経石塚  
君津市加名盛（妙長寺奥之院）

【お問い合わせ】

妙長寺

〒292-0432 君津市浦田 295

☎ 0439-27-3309

【お問合せ】

御題目写経推進本部 〒290-0005 市原市山木 943 妙栄寺内

☎ 0436-41-7232

なぞり書き用紙：500円（1組10枚）

- ・厚さ3cm以下の場合、日本郵政のレターパックライト（370円）で送らせて頂きます。
- ・重量が4kgを超える発送の場合、ゆうパックにて発送させて頂きます。

【お支払い方法】

郵便振り替え口座 0240-7-80955「御題目写経推進本部」

※同封の振込み伝票か、口座にてお支払いをお願い致します。

※振込票の控えにて領収書に代えさせて頂きます。必要な場合はご連絡をお願い致します。

※振込手数料は申込者様ご負担をお願い致します。

「お問合せ QR コード」



こちらからもお申込できます

広報誌 いのり 第5号

発行日  
発行人  
発行所  
編集担当

令和5年12月1日  
日蓮宗千葉県西部宗務所長 山本隆真  
市原市潤井戸 1915 光福寺内  
日蓮宗千葉県西部宗務所  
日蓮宗千葉県西部布教師会